

海外安全対策情報 2023 年第 4 四半期 (10~12 月)

在ブルガリア日本国大使館

1 社会・治安情勢および一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 社会情勢

イスラエル・パレスチナ情勢を受け、10 月 8 日、ブルガリア政府は、空港、駅、並びにイスラエル及びユダヤ関連施設等における警戒を強化しました。ソフィア市をはじめ、ブルガリア国内各地において関連するデモが散発的に実施されていますが、大きな混乱は生じていません。

他方、11 月に UEFA ユーロ 2024 欧州予選 (ブルガリア対ハンガリー) の開催に合わせて実施されたブルガリアサッカー連盟 (BFU) の運営等に抗議するデモでは、多数の負傷者・逮捕者が生じ、市内の各種設備が破壊されるなど、大きな混乱となりました。また、デモの制圧に当たった警察官数名が、過度の実力を行使したとして懲戒処分を受けるなどし、波紋が広がっています。

(2) 治安情勢

ア 犯罪統計

ブルガリアでは近年、犯罪の減少傾向が続いていましたが、2022 年の犯罪認知件数は前年比約 1 割増となり、5 年ぶりに増加に転じました。人口 10 万人当たりの犯罪認知件数を日本と比較すると、ブルガリアは日本の約 2.8 倍で、罪名別にみると殺人は約 6 倍、強盗は約 15.2 倍と、凶悪犯罪について非常に高い水準にあります。

なお、この期間中、ソフィア市内で拳銃使用を伴う強盗事件や殺人事件が連続で発生しており、特に夜間の行動には改めて注意が必要です。

イ 不法移民統計

内務省の発表によると、2022 年中にブルガリア国内において身柄を拘束された不法移民は 18,729 人で、前年から約 52.5%増加しました。

ウ 交通事故統計

内務省の発表によると、2022 年のブルガリア国内の交通事故発生件数は 6,609 件 (前年比+529 件)、死者数は 531 人 (前年比-30 人)、負傷者数は 8,422 人 (前年比+813 人) でした。

欧州委員会によると、2022 年のブルガリアの人口 100 万人当たりの交通事故死者数 78 人で、86 人のルーマニアに次いで、EU 内ワースト 2 位です。

(3) 日本人被害犯罪の発生状況

この期間中、日本人が被害となった犯罪は認知していません。

2 テロ・爆弾事件発生状況

この期間中、テロ・爆弾事件は発生していません。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

この期間中、日本人が被害に遭った事件は認知していません。

4 日本企業の安全に関する諸問題

ブルガリア国内における対日感情は基本的には良好で、日本人に対する差別行為はこれまであまり見られません。